

No. 99

2014/9/12



OPEN オープンユニオン 岐阜大学職員組合ニュース UNION



岐阜大学職員組合発行

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
Tel. 内線 9552 Fax 058-230-1118
E-mail: kumiai@gifu-u.ac.jp
HomePage: 岐阜大学職員組合 (検索)

第31回定期大会の開催について

中央執行委員長 荒井 聡

岐阜大学職員組合同約第11条に基づき、下記の日程で岐阜大学職員組合第31回定期大会を開催します。

各支部の代議員数は組合員5名につき1名です（端数切り上げ）。各支部で選出をお願いします。

記

岐阜大学職員組合 第31回定期大会

日時 2014年10月1日（水）17時45分～

会場 地域科学部 第1会議室

議案	第1号議案	第30期活動報告
	第2号議案	第30期決算報告
	第3号議案	第31期活動方針案
	第4号議案	第31期予算案
	その他	

- ・軽食を準備します。
- ・組合員はどなたでもオブザーバとして参加いただけます。
- ・代議員として出席希望の方は、支部役員にご連絡ください。

以上

全大教第46回定期大会報告

全国大学高専教職員組合の標記大会の報告をいたします。

これは7月12日(土)・13日(日)に東京都の南部労政会館(東京都品川区大崎)で開催されたものです。二日間にわたり14件の議案が討議に付されました。

初日は13時から開催されました。今回は運悪く(?)本学の代議員(私のことです!)は輪番により常任議事運営委員を任命されておりました。もっとも、マニュアルが完備しているので、役名は仰々しいけどそう恐れるものではありませんでしたが。

冒頭では開会宣言、役割分担の任命・確認、全大教中央執行委員長や来賓者・関係組織のあいさつ等事務的セレモニー的なものが続いておりました。

実質討議の最初は重要な案件として「特例法に伴った平均7.8%の給与の不当な臨時削減」に対する法廷争訟の財政的支援について討論が交わされました。限られた資金の中でどのように支援していくか?また、援助額は妥当なのか?が議論されました。財政的な議題になるとやはり、「全大教の財政力;つまり各国公立大学・高専職組の組織率が如何ほどか」ということの重要性がよくわかります。

その後、簡単な規約・規定改正案件を処理した後にヤマ場の「14年度の運動方針案」が議論されました。この部分では侃侃諤々の議論が続きましたが、議事予定に従い一旦休会となりました。運動方針についてはいくつかの組合から修正の提案もありました。

二日目午前は簡単な採決案件処理の後、昨日に続き14年度の運動方針について予定時間を大幅な超過した白熱した討論が続けられました。この案件は午前中で採決の予定でしたが、午後に採決がずれ込むという白熱振りでした。結果的には若干の修正を受け、原案が大枠では承認されました。

ヤマ場の後は、穏やかな「承認案件」が続きました。しかし、予定が大幅にずれただめに遠方から参加の代議員の中には空港に向けて帰途につく方が続出し、ある時点で、出席代議員数が定足数に足りないという事態になってしまいました。実は、これは議事運営委員である私の失態とも思われます。(関係者には申し訳なかったです...)もっとも、不幸中の幸いというか、定足数を割った後の議案はすべて各種役員等の承認案件だったので、実質的な問題にはなりませんし、次のしかるべき会合で、事後承諾だけど承認は得られるであろうとのことでした。結局、予定を1時間近くオーバーした16時40分ごろに大会は何とか大過なく閉会しました。

来賓者からの印象深かった言葉に、“通常の学校教育の中で、若い世代に「良き市民としての法・人権に対する適切な感覚・関心」や「一般市民・労働者の団結力の素晴らしさ」というものの重要性を強調してほしい;それができるのはまさしく高等教育機関の教員しかいない。”という趣旨のものがおりました。速効性はないかもしれませんが、こういう地道な努力、しかもそれは我々ならばすぐにでもできる努力、というものが実は職員組合活動にとって大切だということに気付かされました。

(書記次長 宇佐美広介)

教職員共済役員・実務者会議のご報告

組合員の生活を守る重要な組合活動

8月22日に教職員共済役員・実務者会議が都内で開催され、書記と2名で出席しました。

本共済は、非営利の助けあい事業として、組合員の生活を守る重要な組合活動として位置づけられています。非営利で運用されているため、他の共済事業と比較しても有利なものも多くセットされています。賃金削減が続く昨今、私たちの生活防衛にも強い味方となります。また事務委託手数料収入は、組合財政にとっても貴重な財源となっています。

このように共済事業は、組合活動としても重要な意味を持ちますが、最近では宣伝不足のせいか、加入者が少なくなっています。そこで、本組合としても、共済事業を組合活動の柱の一つとして位置づけし、組織建設とも並行して取り組んでいきたいと思っております。総合共済（月々900円の助けあい）、新・終身共済（生涯にわたる死亡・高度障害保障）、年金共済（いきいきしたセカンドライフ）など助けあいから生まれたプランが揃っています。メール等により共済を利用した人の声を紹介するなどの取り組みを進めていきます。

教職員共済の申し込み受付は、職員組合事務室で行っています。皆さまの生活の充実のために、是非この機会に教職員共済の利用をご検討下さい。

（中央執行委員長 荒井聡）

サマーパーティー（2014年8月1日）

2014年8月1日、応用生物科学部支部の主催により、恒例のサマー・パーティーが開催されました。今年は、柳戸農場の技術職員の組合員の皆様のご協力のもと、バーベキューを行いました。

雨天でも実施可能なように準備を整えて参りましたが、幸い天候にも恵まれ、非常にたくさんの方にご参加いただきました。内訳は、組合員36人、家族・OB 6人、未組合員4人の合計46人でした（他に学生多数）。お子様を同伴された組合員もいらっしたため、非常に和やかな雰囲気となりました。

パーティーでは、氷水でよく冷えたビールは勿論のこと、飛騨牛のステーキ、串焼き、焼そばなど、様々な料理を堪能することができました。パーティーの終盤には、ギターの生演奏を伴奏に、参加者で合唱も行いました。

皆様のご協力のおかげで、今回のサマー・パーティーは盛況のうちに終了いたしました。組合員同士の連帯感を深めるだけでなく、未組合員を勧誘するよい機会となりました。皆様に厚く御礼申し上げます。



（応用生物科学部支部書記長 伊藤直人）

退職にあたってのご挨拶

今井書記長より、送別会のご案内を頂きましたが、私の勝手に辞退させて頂きました。大変申し訳ございません。

身勝手ながら、この紙面を借りてご挨拶させていただきます。

「大学もだんだんと厳しくなっているようですが、組合は、最後の良識の砦だから頑張ってください」

福島ツアーの案内を差し上げたOBさんから頂いた返信です。私としても共感できるお言葉でした。

私が当組合にお世話になったのは11年前です。

当時は、法人化が決まり、いよいよ独立行政法人になろうとしている時でした。

翌4月、大学法人化とともに組合も労働組合として生まれ変わりました。

公務員時代と違い、労働条件等が労使で決められる、誰もが組合を必要とする、過半数組合にならないと、と期待も高まっていたように記憶しています…。

11年後の現在は、いかがでしょう？

私の感触では、あまり変わっていないような気がします…。

私はアナログ人間ですので、時代の変化に対応できなくなってきました。

柴田さんという若い書記さんにバトンを渡し、当組合が、組織的にも財政的にもリフレッシュされ、発展されますことをお祈りしております。

皆様

大変お世話になりました。この場をかりて御礼申し上げます。

最後にNHK番組「花子とアン」より

ごきげんよう さようなら

2014年9月

荒井浩子

荒井さんには裏方として本組合の活動を長い間サポートしていただき、大変感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。長い間ありがとうございました。

10月からは新しい役員、新しい書記となります。これに伴い、組合事務室の開室時間を変更する予定です。詳細は次号でお伝えします。